

## 令和元年度 産業建設委員会視察報告

### 1 岐阜県揖斐郡大野町

#### ◆視察目的：デマンド交通について

少子高齢化社会の進展とコンパクトシティ化に伴い新たな地域ネットワークの構築と公共交通のあり方が市政の大きな課題となりつつある。本市議会でも地域振興バス運行のあり方が議論される中、デマンド交通を本格的に研究検討する時期にきているという一定の認識がみられることから、デマンドタクシー制度をいち早く導入し先進事例となる岐阜県揖斐郡大野町を視察した。大野町役場では井上保子議長ほか担当の内藤睦文政策財政課長等に詳しくご説明をいただくことができた。

#### ◆デマンドタクシー導入の背景

大野町は、中核市の岐阜市及び大垣市から10～20km、約30分の範囲にある人口2万3千人の自治体であるが、平成13年から17年にかけて、町内を通過する名鉄谷汲線、同揖斐線が相次いで廃線になり、岐阜市、大垣市等への通勤、通学はもとより町内の買い物、通院等まで町民の生活の足の確保が町政の大きな課題となった。



#### ◆制度の概要と導入の経過

廃線と同時に名鉄線は代替バス路線なり、17年からは町独自のコミュニティバス導入実証実験を行うとともに、19年から大野デマンドタクシー「あいのりくん」の運行を開始した。

初年度は「定路線型」で2路線を、1乗車ひとり100円、停留所数計31箇所で行った。

翌20年度からは大野バスセンターを中心にした北、西、南の3ゾーンと共通ゾーンの4ゾーンを設定しその中で各エリア7便ずつを乗合制で運行する「エリアデマンド型」に移行（1乗車200円に変更）、さらに要望の多い早朝便を新設した。

26年度からはエリアをなくし自宅を登録、自宅から128箇所の指定停留所へ乗合制で運行する「自由経路ドアツードア型」とし1乗車300円にした。

30年度からは町外で町民の利用が多い拠点病院へも経路を延ばした。（1乗車1000円）

#### ◆運行の効果と運営の課題

25年以前のエリアデマンド型で1日平均6人前後だった利用者は、自由経路ドアツードア型にした26年度以降、1日平均40人弱（31年度）と飛躍的に伸び、現在2台の「あいのりくん」はフル稼働状態にある。運行経費から運賃収入を差し引いた運営費は全

額町負担で、年間約１千万円。岐阜県からの補助金（３０年度で９２万円）がある。

#### ◆考察

大野町のデマンドタクシー制度は、１０年以上の試行錯誤を重ね、現在の「自由経路ドアツードア型」までたどり着いたといえる。現在は稼働率も高くなり住民ニーズを十分にとらえるに至っているといってもいいのではないだろうか。

市街地が比較的コンパクトにまとまった地域では、大野町のような「自由経路ドアツードア型」は地域の高齢者の有力な交通手段足として有力だが、タクシーが普及している地域ではタクシーの需要を奪う懸念もあり得る。

行政経費としては毎年１千万円ほどの持ち出しになっていることから、今後継続の観点からは費用対効果と財源の検証が必要であろう。

大野町とは地勢条件が異なる本市にそのままこの形で導入するというわけには行かないが、拠点間を結ぶ地域振興バス運行と併用しながらの地域内の高齢者、障害者の移動対策、免許証返納対策として有効な手段と考えられるのでより一層の研究が必要であろう。

## ２ 名古屋市・名古屋城本丸御殿復元事業

#### ◆視察目的：名古屋城本丸御殿復元事業と伝統工芸産業の関わりについて

城郭として国宝第１号指定の名古屋城は、昭和２０年の戦争空襲ですべての建物を焼失、そのうち記録が詳細に残る本丸御殿が平成２１年から１０年の歳月を経て昨年６月に復元完成をみた。尾張藩主で江戸第三代将軍家光の居城として建造された豪華絢爛を誇る本丸御殿は復元施工後すでに名古屋の代表的な観光名所になり多くの観光客を惹きつけているが、復元における漆工技術には塩尻木曽地域地場産業振興センターが関わり木曽漆器技術が使われたことから、今回その成果と今後同様事業における可能性を探るため視察した。

#### ◆視察の概要

当日は名古屋市役所観光文化交流局名古屋城総合備事務所の堀田保存整備室長にご説明いただき、復元施設の現場詳細をご案内いただいた。

当復元事業には漆技術を始め屋根の柿（こけら）葺き、金具飾り、彫刻欄間、建具、金箔押し、七宝焼、木彫彩色飾り、表具等伝統工芸産業の技術が多く使われた。発注の基本仕様書ではこれらの調達は地元東海３県（愛知、岐阜、三重）から５割以上調達を原則としたという。漆芸部門施工にあたっては落札した元請けのＪＶの安藤ハザマから孫請けの形で木曽漆器が請け負ったもの。施工に当たっては非常に綿密で丁寧な施工をしていただいたとのこと。



### ◆考察

この本丸御殿は、将来の国宝指定を想定した施工になっているそうで、国法重文の保存修復に絶対的指導力を持つ文化財建造物保存技術協会が基本設計に関わり厳しい技術基準をクリアする職人が選定されるが、そこに塩尻木曽地域地場産業振興センター（木曽漆器）が参入できたことは大きな成果であった。

今後、本丸御殿のあと、現在耐震未対応で観光客入場禁止になっている天守閣の修復が想定されるという。今のところこの具体的な計画は未定だそうだが、将来にむけて木曽漆器が今回のような孫請け、あるいは、直接指名をされるようなことを想定して今から技術の伝承と職人・技術者の育成を図っていく必要があること、そのために塩尻木曽地域地場産業振興センターの重要性と存在価値を認識する視察となった。

## 3 東京都中央区・銀座NAGANO

◆視察の目的：県のアンテナショップである銀座NAGANOがやろうとしていること及びワインをめぐる国内外の状況と塩尻ワインの可能性について



### ◆視察の概要

県のアンテナショップである銀座NAGANOがやろうとしていることについて、長野県信州首都圏総合活動拠点「銀座NAGANO」小山浩一所長よりまず概要説明を受けた。

また、ワインをめぐる国内外の状況と塩尻ワインの可能性については銀座NAGANOに所属し信州ワインの振興のために活動するソムリエの花岡純也氏にお話をうかがう予定であったが、ちょうどこの日に11月9日に目黒雅叙園で開催される本市の「塩尻 GLAND

WINE PARTY TOKYO 2019」のプレス・リリースが行われるというので、同施設2階にある会場に同席させてもらいこれを見学することができた。新聞、雑誌、テレビ等関係十数社に対する同氏及び塩尻市出身のイベント企画プロデューサー武田智幸氏による絶妙のトークパフォーマンスに立ち会うことができ、有意義な視察となった。

## 4 東京都多摩市

◆視察目的：公契約条例の制定について

市が発注する公共工事等に従事する労働者の労働条件について一定の条件を契約条項に加えることにより公正競争、公正労働環境を確保し、ひいては公共事業の質の向上と地域の人材確保につなげようという「公契約条例」が話題となっている。これについて、平成23年にいち早く全国3番目に同条例を可決し以後市政で運用している東京都多摩市を視察した。



#### ◆同条例の目的と課題

多摩市条例の一番の肝は、予定価格が5千万円以上の工事または製造の請負契約を適用対象とし賃金の下限額を決めるところにあると思われる。多摩市では「公契約審議会」を設け、賃金の下限額を毎年決定しているというが、一番の課題は、対象業者がこれを守っていることをいかに検証するかにあると言える。この手続きのためだけに対象工事に関わった従業員の賃金を算定する「労務台帳」を作成しなければならないが、これを企業に負わせるコンセンサスを得ることと、これを客観的に検証する専任職員等庁内の運用体制をいかに構築するかが課題になると思われる。

#### ◆考察

多摩市では、23年の制度制定（条例議決）以降、こんにちまで同条例を運用してきたが、とくに大きな障害やトラブルもないという。制定前の手続きから制度定着までの間、市長公約による制度制定の推進、市民と事業者に対する丁寧な説明、決定プロセスの公開、事業者負担の軽減対策等きめ細かな対応がなされてきたことが、条例議決を含めスムーズな運用の根底にあると感じた。

不当なダンピングを防止し公正な競争が保障される同制度は、適正に施行されれば市民にとっても事業者にとっても大きなメリットがあるので、本市でも制度制定に向けて検討することが必要であろう。

